



本番に向けて面談

面談を始めた。最終的な受験校を（一応）決めるためのもので、「受験計画表」を見せてもらいながら話を進めている。

ポイントの一つは、国公立を受ける人は、後期をどうするかということである。出願の際、前期と後期は同時に出願することになるので、もちろん、センター試験の結果が出てみないと分からないところがあるにせよ、とりあえず方向性は出しておいた方がよいし、それにとまって、願書や調査書を手に入れておいた方がよいからである。ちなみに、センター試験の結果が予想と（イイ意味でも悪い意味でも）大きく異なってしまって、志望校を変更することになった場合には、テレメールの「速達対応便」が活用できるので、イザという時のために下調べをしておこう（赤いテレメール冊子の48ページ参照）。また、調査書も（日比谷の推薦選抜業務などもあり）即日発行に対応できない場合もあるので、余裕をもって申請すること。

二つ目は、（ちょっと言葉は悪いが）「練習で私立を受けた方がよいのか」、つまり、合格しても多分進学しないと思われる大学でも、行きたいと思う大学の試験の前に、腕慣らしで受験しておいた方がよいのかということである。これは難しく、その人の集中力や本番での強さなどを考えて判断することになるが、一般的には、もし迷っているなら1～2校は受験しておいた方がよいといえる。逆に、模試などですでに色々な会場に出かけて色々な人に交じって受験したことがあるし、特に緊張することもなさそうだというなら、入りもしない大学の受験に行くよりも、第一志望大学に向けて少しでも努力しておい

た方がよいということになる。

ただし、これは、いざとなったら浪人することも覚悟している場合であって、どうしても現役でということなら、志望レベルよりもワンランク低い大学も含め、幅広く受験することが基本となるから、その中には練習的な受験をしなければならないことも出てくるだろう。

そうなると、次にどの程度赤本をやらなければならないのかということが問題になるが、自分が第一志望とする（あるいは入ったら行きたい）大学の赤本を中心にやることにして、他の大学に関しては、2年分くらいの過去問に目を通すといったところか。まったく知らないで受けに行くのはやはり避けた方がよいので、職員室の赤本を活用してチャレンジしてみるとよいだろう。受験直前になると、つまり、来年の2月以降になると、第一志望の学校の過去問をやりたい気持ちが強まるから、むしろ年内の今のうちに1～2年分くらい解いておいて、あとは直前にもう一度やってみるといった感じで計画を立てたらどうだろう。

最後は、受験日の連続。これは、3日が限度か。3教科とはいっても、知らない場所で知らない人に囲まれて、緊張した雰囲気の中で過ごす、予想以上に疲れるものだ。早慶など、どうしても行きたいと思っている大学の場合は、たとえ連続であっても受けざるを得なくなるわけだが、それでも3日が限度くらいのつもりで、受ける学部をうまく調節するとよいだろう。

ということで、いよいよ本番近し！